

令和4年度 第4回 東陽中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年 2月24日（金） 14時00分～15時45分
- 2 開催場所 東陽中学校会議室
- 3 出席委員 大橋 美義、飯塚 正師、吉春 辰郎、高林 昇、山田 玲子、小田 明美、
- 4 欠席委員 増谷 方明、藤田 眞弓
- 5 学 校 吉田 宗弘（校長）、廣岡 誠司（教頭）、堀部 峻也（研修主任）
鈴木江利子（CS ディレクター）
- 6 教育委員会 清水 悠（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 鈴木江利子
- 9 議長の選出

委員の推薦により、大橋会長が本日の議長を務めることを出席者全員が承認した。

10 協議事項

- (1) 学校関係者評価
- (2) 令和5年度学校運営の基本方針の承認について
- (3) 学校運営協議会の自己評価について
- (4) 夢育やらまいか事業（CS 加算分）の運用報告について

11 会議記録

司会の廣岡教頭から、委員総数8名のうち6名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

※本年度副会長の飯塚様が PTA 会長を退任となり、来年度学校運営協議会コーディネーターとしてお願いする。

(1) 学校関係者評価

- ① 学校から自己評価（子供・保護者・教職員のアンケート結果及び、その分析結果と改善策等）の結果について説明（資料参照）
 - ・ 5にある自己実現を…年間予定があると良い。具体的に生徒に見せると良い。心が整わないといけな
い。整えるための学びが必要。それが家族から芽生えたら嬉しいこと。（飯塚委員）
 - ・ 「整える」ということについてもう少し詳しくお願いしたい。（大橋会長）
 - ・ 言動・行動にうつす前に心にとめる。良いことばかりでなく悪いことも同様に。（飯塚委員）
 - ・ 大人もそうだが子どもも心を整えるのは難しい。「みんな違ってみんないい。」と言われるが、「違う。」
と言われたくない。周囲の雰囲気の良い状況にするのが難しい。（山田委員）
 - ・ 受容的雰囲気ということですね。（大橋会長）
 - ・ No.7の「宿題以外…」教師はしていないと思っている。No.8生徒は挨拶していると思っているが、教
師はそうでもないと思っている。No.12も生徒と教師の認識の違いがある。（高林委員）
 - ・ 例えば「宿題…」教師は全員が出せればよいが、出さない生徒がある程度いるので「あまりそう思わ
ない」となっている。（教頭）
 - ・ 「挨拶…」の基準を生徒は知らないなので、教師が伝えていけば改善すると思う。（飯塚委員）
 - ・ その場を捉えて適宜教えていくことが必要。朝7:00～7:30に登校の見守りをしているが、マスク越し
で表情が分からない、小学生の中には声が小さくて聞こえない子がいる。中学生はしっかり挨拶でき

- る。グレードアップするために、大人がその都度教えることが必要。(大橋会長)
- ・ No.3 は年齢的なものがあるが、伝えることの難しさがあると思う。親がゆっくり話を聞いてあげるなど周囲のサポートはどうだろうか。No.12、13 の結果が不思議に感じる。(小田委員)
 - ・ 家庭での会話が少なくなっているのではないか。(飯塚委員)
 - ・ 我が家はよく話す、子どもの話には主語がない。(山田委員)
 - ・ 子ども達は自分がどうしたいか相談できるのか。(飯塚委員)
 - ・ 相手が誰でも、自分が納得できるまで話ができるか。(小田委員)
 - ・ だめと言われたら子どもはあきらめる。子どもは説明するのが苦手だからだと思う。(山田委員)
 - ・ 生徒が「そう思わない」と答えている項目について、教師の指導はどうなっているか。(吉春委員)
 - ・ このアンケートは記名が自由なので、学校がどのように対処していくかをこれから考える。「そう思わない」という生徒には、学校生活に何らかの様子が見られると思われるので、それに対して指導していく。(教頭)
 - ・ 分からないところを丁寧に教えて、個々の表れについても指導していく。このアンケートは学校全体の実態調査である。問題を抱えている生徒について、学級担任は日頃の様子を見ていて完全とは言えないまでも指導をしている。(校長)
 - ・ 生徒は、学級担任との個別面談の際に本音で語れているだろうか。(飯塚委員)
 - ・ 学校評価の結果をふまえた今後の改善策として方向性が示されている。(大橋会長)

(4) 令和5年度学校運営の基本方針の承認について(資料参照)

- ・ 「教師力の育成」とあるが、研修をしたとしてもその指導者が教師であるために基本的に大きく変わることはないと思われる。まずは、最近多くなっている教師の不祥事をゼロにすることが第一だと思う。(飯塚委員)
- ・ 暴言が昔はあったが、現代はどのようにしていくのか。(吉春委員)
- ・ 生徒の人権尊重の精神でいく。(大橋会長)
- ・ いずれにしても配慮が必要だと思う。(吉春委員)
- ・ 特別活動にリーダーとフォロワーとあるがどういう意味か。(山田委員)
- ・ 生徒会活動、体育大会が縦割りで、その中で3年生がリーダーシップをとる。そして下級生が協力するような取組。(校長)
- ・ その部分に「養成に努める」とあるが誰が教えるのか。(山田委員)
- ・ 経営を成立させるには、「役割を全うする」「役割を超えない」が重要。(飯塚委員)
- ・ 養成となると誰が教えるのか。(山田委員)
- ・ 子ども同士だと思う。(飯塚委員)
- ・ 学校として場の設定も考えていきたい。(校長)
- ・ 養成や、リーダー・フォロワーという言葉が上下関係の意味合いがよくなっていると感じられるということ。(大橋会長)
- ・ 縦割り活動はあるのか。(山田委員)
- ・ コロナ禍で限定的ではあるが実施している。(校長)
- ・ 小学校は縦割り活動が多いと感じる。(山田委員)
- ・ 中学校ならではの取組の良さがあると思う。(校長)
- ・ 「学力の2極化」となっているが、学校経営構想案に扱われていないが。(高林委員)
- ・ 1人1人の現状を見極めていこうと考えている。具体的にいうと、ICT。タブレットを使用して個別最適化を図っていく。(校長)

- ・学校経営構想案は短い言葉で要約してあるから、その言葉には深い意味が込められているということになる。(大橋会長)
- ・「QU 検査」とはどういうものか。(吉春委員)
- ・学級の間人間関係が分かるもので、分析されてアドバイスが受けられる。それを資料として担任が生徒に指導する。親和的な集団作りに生かす。(校長)
- ・知・徳・体の3本柱、キャリア教育、発達支援教育の理念、多様な研修の機会があるなど説明された。来年度のグランドデザインが承認できるか。(大橋会長)
- 全員の承認が得られた。

(5) 学校運営協議会の自己評価について(資料参照)

- ・表記をそろえるという細部の注意はある。(大橋会長)
- 事前に全員のアンケート内容、集約された文章が送付されていたので、全員の承認が得られた。

(6) 夢育やらまいか事業(CS加算分)の運用報告について(資料参照)

- 報告のみ

その他連絡事項

- 次回は、令和5年5月12日(金) 14:00~15:30
- 今後の協議会内容
 - ・委員任命書交付
 - ・会長、議長の選出
 - ・学校運営の基本方針について
 - ・夢育やらまいか事業に対する意見書について